

## 説教題：神の御心に従って人生を生きなさい

### 聖書朗読: ペテロの手紙 第一 4章1-8節

1このように、キリストは肉体において苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉体において苦しみを受けた人は、罪とのかかわりを断ちました。<sup>2</sup>こうしてあなたがたは、地上に残された時を、もはや人間の欲望のためではなく、神のみこころのために過ごすようになるのです。<sup>3</sup>あなたがたは、異邦人たちがしたいと思っていることを行ない、好色、情欲、酔酒、遊興、宴会騒ぎ、忌むべき偶像礼拝などにふけたものですが、それは過ぎ去った時で、もう十分です。<sup>4</sup>彼らは、あなたがたが自分たちといっしょに度を過ぎた放蕩に走らないので不思議に思い、また悪口を言います。<sup>5</sup>彼らは、生きている人々をも死んだ人々をも、すぐにもさばこうとしている方に対し、申し開きをしなければなりません。<sup>6</sup>というのは、死んだ人々にも福音が宣べ伝えられていたのですが、それはその人々が肉体においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神によって生きるためでした。

<sup>7</sup>万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。<sup>8</sup>何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。

皆さん、おはようございます。またお会いできて嬉しいです。今日はペテロの手紙 第一の学びに戻ります。今日は、4章の前半をして、残りの半分を次週に学びます。

今日のメッセージを準備しているときに気づいたのですが、4章は、この手紙の以前の部分で見たテーマのいくつかに戻っています。たとえば、ペテロはこの章を、キリストの苦難に関するコメントと、私たちがキリストの模範に従い、他者の利益のために正しく必要なことを行うことで苦しむべきであることについて述べることから始めます。2~4節では、ペテロはクリスチャンがどのように正しい生活を送るべきか、以前の罪深い習慣的な生活を捨てるべきかを強調します。そして、信じない者たちは私たちの正しい生活をしばると述べています。もし嘲笑や非難を受けるなら、それは私たちのクリスチャンのライフスタイルのためであって、何かの犯罪や迷惑を引き起こしたからではありません。そしてペテロは19節で、忠実であることへの勧めでこの章を締めくくります。これらすべてのテーマは4章で扱われており、この書の前の章で見られたテーマとも呼応しています。4章1節を見てみましょう。「ですから...」ほとんどの英語の聖書翻訳では、この章は「Therefore (ですから)」という言葉で始まります。私の以前の説教でも、聖書の勉強に関するちょっとおもしろい原則をお伝えしたことがあります。「Therefore (ですから)」という言葉を見たら、その言葉がなぜそこにあるのかを考えてみてください。」では、この文に「Therefore (ですから)」という言葉が出てくる目的は何でしょうか？これは、前の箇所を見て、著者がその前の節で何を言っていたのかを確認するように促すためのものです。なぜなら、彼はこの節の前に述べた考えを継続しているからです。

まず、4章の1-2を読みましょう – 「このように、キリストは肉体において苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉体において苦しみを受けた人は、罪とのかかわりを断ちました。<sup>2</sup>こうしてあなたがたは、地上の残さ

れた時を、もはや人間の欲望のためではなく、神のみこころのために過ごすようになるのです。」

ペテロの以前の発言について、いくつかの箇所を見てみましょう。3章18節で、ペテロは「キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、私たちが神のみもとに導くためでした。」と述べています。キリストが来られた目的は、私たちの罪のための犠牲となり、神との関係が回復されるようにすることであり、私たちの罪の刑を十字架の上で肉において死によって支払うことにあります。

2章21-24節を見ましょう – 「<sup>21</sup>あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。<sup>22</sup>キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。[イザヤ 53:9] <sup>23</sup>ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。<sup>24</sup>そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。

21節では、キリストが私たちに模範を残されたと書かれています。そして23節では、キリストが避難を受けたが、それに対して、人々に復讐しなかったと書かれています。私たちは、正しいことを行っているにもかかわらず非難を受けたとき、その模範に従います。しかし、私たちがすべきことはそれだけではありません。24節では、私たちは罪に対して死ななければならないと書かれています。過去の罪深い生活に染まった生活を送るのではなく、「義に生きる」、神を喜ばせる生活を送らなければなりません。それには自制が必要であり、罪の喜びに対してノーと言うこと、誘惑に対して絶えずノーと言うことを意味します。

1ペテロ4章1節に戻りましょう – 「このように、キリストは肉体において苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉体において苦しみを受けた人は、罪とのかかわりを断ちました。」キリストは不正と死に苦しみました。私たちキリスト者も時には不正に苦しむことがあります。そして、私たちは自分の人生から罪を取り除こうとする、時には苦しい努力をしなければなりません。私たちはそれを完璧にはできませんが、私たち一人ひとりの人生は、尊く生き、罪深い行いをやめようとするキリストの弟子として刻まれるべきです。聖書解説者たちは、これが1節で「罪とのかかわりを断つ」と言われている意味だと述べています。これは全ての罪を100%完璧にやめるということではなく、罪深い快楽を捨てることによって特徴づけられるライフスタイルを持つべきだということです。

ESV スタディバイブルの注解は、「罪とのかかわりを断つ」というフレーズについて、三つの可能な解釈を示しています。注解の著者たちは、彼らが説明する最初の解釈は、ペテ

ロが言及しているものではない可能性が高いと述べています。二番目と三番目の解釈は第、どちらも私のフレーズに対する考え方に好意的です。以下は、ESV スタディバイブルが「肉において苦しんだ者は罪とのかかわりを断つ」というフレーズの、最も適切な第二と第三の解釈について述べている内容です。

(2) 他の解説者たちは、これは信者がキリストと共に死んだ結果として罪の力に死んでいることを指していると示唆しています（ローマ 6:1-11 におけるパウロの概念に類似）。

(3) より可能性が高いのは、ペテロの要点は、信者が苦しむことをいとわないとき、罪の中枢が彼らの人生から切り離されるということです。信者はこの世で完全に罪から自由になることは決してありません（ヤコブ 3:2、第一ヨハネ 1:8 参照）が、信者がキリストのために苦しみに耐えるとき、彼らの人生の目的は自分の喜びのために生きるのではなく、神の御心に従い、その栄光のために生きることであることを示しています。

そして、私のお気に入りのペテロ第一の注解はこう述べています：

ちょうどキリストが肉において苦しんだように（3 章 18 節が示すように、死によって）、信者もまた苦しむことを決意すべきです。苦しむことを決意するという事は、罪が彼らを支配するのをやめたことを示しています。4 章 2 節は、1 節で与えられた勧告の目的を補足しています。信者は残りの人生を神の御心に従って生きるために、苦しむことを決意すべきです。

1 ペテロ 4 章 1-2 節をもう一度読みましょう - 「このように、キリストは肉体において苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉体において苦しみを受けた人は、罪とのかかわりを断ちました。<sup>2</sup> こうしてあなたがたは、地上の残された時を、もはや人間の欲望のためではなく、神のみこころのために過ごすようになるのです。」これが私たちのライフスタイルであるべき姿です。罪深い欲望のために生きるのではなく、神を敬い、神の御国を築く生き方をしましょう。

2 章の重要な 2 つの節を読ませてください...11 - 12 節 — 「<sup>11</sup>愛する者たちよ。あなたがたにお勧めします。旅人であり寄留者であるあなたがたは、たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざけなさい。<sup>12</sup> 異邦人の中にあつて、りっぱにふるまいなさい。そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行ないを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります。」

私たちクリスチャンはこの罪深く墮落した世界では異邦人です。なぜなら、私たちは神の国の市民だからです。だから、異邦人が従事する肉の欲に加わってはなりません。立派にふるまいなさい。もし何かで批判されることがあるなら、それは悪いことをしたことでではなく、良いことをしたことであってほしいのです。

4 章に戻り、続けて 3-4 節を読みましょう - 「<sup>3</sup>あなたがたは、異邦人たちがしたいと思っていることを行ない、好色、情欲、醉酒、遊興、宴会騒ぎ、忌むべき偶像礼拝などにふけたものですが、それは過ぎ去った時で、もう十分です。<sup>4</sup>彼らは、あなたがたが自分たちといっしょに度を過ぎた放蕩に走らないので不思議に思い、また悪口を言います。」

ペテロは、あらゆる種類の罪深い行為、偶像崇拜やローマ皇帝の崇拜を含むことが普通であった社会に住む仲間のクリスチャンたちに手紙を書いていました。そのような行いをす

ることは普通の行動と見なされ、クリスチャンたちは一般的な規範に反して生きていると見なされ、皇帝を崇拜しないことで非愛国的とさえ見なされました。ほとんどの人々はあらゆる肉の欲にふけることを楽しんでいました。多くのクリスチャンは異邦人からの改宗者でしたが、今では過去の罪を悔い改め、神に喜ばれる生き方を求めています。弟子としての生活を続けることは容易ではなく、一部のクリスチャンは罪深い道に戻ってしまい、一部のクリスチャンは周囲の異邦人から受ける批判に耐えられません。ペテロは仲間のクリスチャンたちに対し、批判に耐え忠実であり続け、かつかつて従っていた古い欲に従わないよう励ましています。3節で、ペテロはこう言っています：あなたがキリストに立ち返る前に、すでに異邦人の社会の欲望に満ちた快樂を追い求める生活を十分に送ってきたのですから、今はそのような罪深い行いに陥ってはいけません。異邦人たちは、清く規律ある生活を送るキリストの信徒たちを嘲笑います。彼らはキリスト者の自己規律を理解することができず、快樂を追い求めないキリスト者を愚かだと思うのです。

4節と5節を読みましょう－「<sup>4</sup>彼ら（異邦人）は、あなたがたが自分たちといっしょに度を過ぎた放蕩に走らないので不思議に思い、また悪口を言います。<sup>5</sup>彼らは、生きている人々をも死んだ人々をも、すぐにもさばこうとしている方に対し、申し開きをしなければなりません。」

ペテロは同じキリスト者たちを励まし、勇気づけています。彼は、キリストに従う者たちが批判や誘惑の中でも忠実であり続けることを望むだけでなく、読者に、終わりの時には罪深い異邦人たちが、生きている人や死んだ人を裁く力と権威を持つ方に自分の生涯を報告しなければならないことを思い出させています。私たちは皆、いつか死に、裁きを受けることになります。ここでペテロが使っている言葉は法廷用語です。人は死後、裁判官の前に立ち、地上でどのように生きたかを報告しなければならないのです。裁く者は、父なる神であるかもしれませんし、イエス・キリストであるかもしれません。新約聖書のさまざまな箇所いくつかの聖句は、私たちが地上で生きた間に行ったことに対して裁く者としてどちらか一方を示しています。ペテロは、異邦人たちが今あなたたちを批判していると聴衆に伝えていますが、最終的には私たちは皆死に、私たちの生き方に対して裁きを受けることになります。

最後の審判を描写した一つの箇所を読んでみましょう。黙示録 20 章 11-15 節－「<sup>11</sup>また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。<sup>12</sup>また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところから従って、自分の行ないに応じてさばかれた。<sup>13</sup>海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのおの自分の行ないに応じてさばかれた。<sup>14</sup>それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。<sup>15</sup>いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。」

いのちの書とは、この世でキリストを救い主として信じた人々の名前を含む書物です。キリストは十字架にかけられたときにその人々の罪のために死に、罪の罰を支払いました。この人々は罪が既に十字架で裁かれているため、罪について裁かれることはありません。彼らの名前はいのちの書に記されています。この箇所で言及されている他の書物とは、すべての人々の行いが記されている書物のことです。いのちの書に名前が書かれていない者は、自分の行いによって裁かれ、そして「第二の死」と呼ばれる処罰、すなわち火の湖に投げ込まれることを受けます。それが、ペテロが手紙の4章で論じている異邦人の運命です。

1ペテロ4章5-6節を読みましょう – 「<sup>5</sup>彼らは、生きている人々をも死んだ人々をも、すぐにもさばこうとしている方に対し、申し開きをしなければなりません。<sup>6</sup>というのは、死んだ人々にも福音が宣べ伝えられていたのですが、それはその人々が肉体においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神によって生きるためでした。」

6節は長年多くの人々を困惑させてきました。死人に福音が宣べ伝えられるとは正確にはどういう意味でしょうか。その人々が肉体においては人として裁かれ、その後神の計画に従って霊においては神によって生きるとはどういう意味でしょうか。その裁きは生きている者と死んでいる者に関する5節の裁きと異なるものでしょうか、それとも同じでしょうか？

ある人々は、6節が、福音が死後の霊界にいる死者の霊に説かれ、彼らに死後の救いの第二のチャンスを与えるために語られているかもしれないと想像しています。この考えを広める人々は、この節を、3章の節に結びつけます。前回の説教でお話ししたように、それもまたやや不可解な節でした。1ペテロ3章19節 – 「<sup>19</sup>… その霊において、キリストは捕われの霊たちのところに行ってみことばを宣べられたのです。キリストは死後の罪人に第二のチャンスを与えるために、黄泉で福音を説いていたのだろうか？いいえ、そうではありません – それが最良の聖書注解者たちの結論です。ペテロの手紙第一3章19節では、キリストは福音を説いているのではなく、むしろ罪と死に対する勝利を宣言している可能性が最も高いです。死後に救いの第二のチャンスを得るという考えは、新約聖書の他の部分の教えに反しています。そこでは、私たちは地上で生きている間に行ったことによって裁かれることが明確にされています – たとえば、少し前に読んだヨハネの黙示録の箇所です。また、ルカの福音書16章にある金持ちとラザロの話も、救いを得る唯一のチャンスは死ぬ前、地上で生きている間にあることを示しています。

1ペテロの4章におけるギリシャ語の単語と文法を慎重に分析すると、多くの聖書学者は次の結論に至ります。5節では、信じない者たちは裁きを逃れることはできません。なぜなら、彼らは地上での生涯をどのように生きたかについてすべて責任を問われるからです – 死後でさえ、彼らは裁きを受けることとなります。信じない者たちは、信者が清い生活を送り、肉の享樂にふけられないことを嘲笑しました。そしてこれらの信じない者たちは、結局は誰もが死ぬので、規律ある生活を送ることは無意味であるように思えると指摘しました。6節が教えているのは、福音の説教に応じた人々も肉体的な死を迎えるということ

です。なぜなら、エデンの園でアダムが神に罪を犯し、すべての人類、すなわちこれまで生きてきたすべての人々に死の呪いをもたらしたからです—このことは創世記3章とローマ人への手紙5章に記されています。1ペテロ4章6節それが「肉において人として裁かれる」と言うフレーズの意味です。5節の裁きは6節の裁きとは異なります。5節は、たとえ死んでいても、すべての非キリスト者が最終的に神の裁きを受けることを警告しています。6節は、肉体の死という裁きを受ける間も、神が彼らを霊によって生かし、時の終わりに永遠の命に復活させることを約束しているので、キリスト者を励ましています。それが神の計画だと、1ペテロ4章6節は言っています。—「<sup>6</sup>というのは、（肉体的には）死んだ（信仰のあるクリスチャン）人々にも福音が宣べ伝えられていたのですが、それはその人々が肉体においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神によって生きるためでした。」

コメンテーターのトーマス・シュライナーが何と言っているか読んでみましょう：

ペテロは、肉体的に死んだ信者の事例を考察しました。これらの人々は生きていた間に福音を聞き、信じましたが、その後死にました。信仰を持たない人々は、信者の死を信者になることに利点はないという証拠と見なし、例外なくすべての人が死ぬと考えました。しかし、ペテロは信仰を持たない人々は全体像を理解していないと指摘しました。人間の視点から見ると、信者は死ぬために信仰から利益を得ていないように見えますが、神の視点（これは標準的な視点です）から見ると、彼らは霊に従って生きています。…死は信者にとって最後の言葉ではありません。彼らは死者からよみがえられるでしょう。ここでの「肉」と「霊」の対比は、1ペテロ3章18節と対応しています。キリストも肉の面では死にましたが、聖霊によって命に生き返らせられました。同様の運命が信者（死前にキリストを信じた人々）を待っています。彼らは肉体的に死にますが、聖霊によって生き返らせられるでしょう。…この解釈は文脈上最も理にかなっています。なぜなら、読者が同時代の人々から受けている社会的排斥に耐え続けるよう励ますからです。ペテロは、たとえ肉体的に死んでも、死が最終的な結末ではないことを読者に思い出させました。彼らには復活が待っています。

これらの聖句の目的は、次のようです：信者が不信者から受ける批判の中で希望を与えることです。それは、私たちがペテロの手紙の前の部分で見てきたテーマです。

今日の次のセクションに進みましょう。これは、私たちが今日学ぶ最後のセクションです。

1ペテロ4章7-8節—「<sup>7</sup>万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。<sup>8</sup>何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです」

新約聖書のいくつかの箇所、「すべてのものの終わりが近い」というフレーズを読みます。これは、現在の時代が今まさに終わり、キリストがすぐに戻ってくるということを意味するものではありません。これが意味するのは、神が現在の教会時代を始められたこと

であり、この時代の終わりはキリストの再臨によっていつでも起こり得るということです。正確にいつ起こるかは分かりませんが、私たちは常にそれに備えている必要があります。

未来の預言の目的は、私たちに現在の時を忠実に生きるよう呼びかけることです。すべてのことの終わりはいつでも起こり得るので、私たちはペテロの手紙の前の段落に示された原則に従って生きなければなりません：罪から離れ、忠実なクリスチャンとして生き、キリストが受けたように苦しむことをいとわず、信じない者の批判に耐え、いつかその信じない者たちに裁きが来ることを理解し、信者が肉体の死を経験しても御霊によって新しい命に甦り、永遠の命を享受することを知ることです。これはすべて神の計画に従ったものです。

そして8節で、ペテロはキリスト教の教え全体で頻繁に見られるテーマに戻ります。「<sup>8</sup>何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。」私たちが行うべき最も重要なことは、互いに深く愛し合うこと、教会の兄弟姉妹を愛することです。これはヨハネの福音書13章34-35節でキリストが言われたことであり、私たちがキリストの弟子として特徴づける行動です。この節は非常に重要なので、以前の説教でも何度も引用しています。

8節の後半でペテロが何と言っているかに注意してください — 「...愛は多くの罪をおおうからです。」

新約聖書のいくつかの箇所で、私たちは「すべての物事の終わりが近い」というこのフレーズを読みます。これは、現在の時代の終わりが今まさに訪れ、キリストがもうすぐ戻るという意味ではありません。これが意味するのは、神が現在の教会の時代を開始されたことであり、この時代の終わりはキリストの再臨によっていつでも起こり得るということです。私たちは正確にいつ起こるかは知りませんが、それが起こるために常に備えていなければなりません。これが未来の預言の目的です： 私たちに、現代において忠実に生きるよう呼びかけるためです。すべての物事の終わりはいつ起こってもおかしくないので、ペテロは私たちに、今日読んだ4章の節に示されている原則に従って生きるべきだと教えています：罪から離れ、忠実なキリスト者として生き、キリストが受けたように苦しむ覚悟を持ち、信じない者たちの批判に耐え、裁きがいつか信じない者たちに訪れることを理解し、信者も肉体的な死を経験するが、聖霊によって新しい命に生き返り、主イエスと共に永遠の命を享受することを知ること。これらはすべて神の計画に沿ったことです。

7節以降で、ペテロは私たちにいくつかの追加のキリスト教的美徳に従って生きるよう勧めています。もう一度7節と8節を読みますが、今回は **the New International Version** (1984年) で読みます。「7すべての事の終わりは近づいています。それゆえ、心を明晰にし、自制心を持って祈ることができるようにしなさい。8何よりもまず互いに深く愛しなさい。愛は多くの罪をおおうからです。」ペテロは、私たちが祈ることができるように、明晰な心を持ち、酔わず、自制するようにと勧めています...あるいは：あなたの祈りのために（ギリシャ語ではこの「祈り」は複数形です）。

ウェイン・グルデムの解説から引用させていただきます：

正気で冷静であるべき理由は、あなたの祈りのためです；複数形は、一日の中で具体的で個別の祈りを示唆しています。ここでの意図は単に『祈ることができるように』ということ（NIV）ではなく、『より効果的に、より適切に祈るために』、キリスト者は出来事に注意を払い、それを正しく評価することで、より賢明に祈ることができるべきだということです。ペテロの言葉はまた、知識と成熟した状況の評価に基づく祈りの方が、より効果的な祈りであることを示唆しています。

「.. ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。」

そして次の8節で、ペテロはキリスト教の教え全体で頻繁に見られるテーマに戻り、こう言っています、「<sup>8</sup> 何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。」これはペテロの手紙第1章22節を反響させています—「あなたがたは、真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。」私たちが最も重要なこととして行うべきことは、お互いに深く愛し合うこと、そして教会のここにいる兄弟姉妹を愛することです。ヨハネの福音書13章34-35節でキリストが言われたのは、これが私たちをキリストの弟子として特徴づける行いであるということです——この節はあまりにも重要なため、以前の説教でも何度も引用してきました。イエスは言われました、「<sup>34</sup> あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。<sup>35</sup> もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

ペテロの手紙第1章に戻って、ペテロが8節の後半で何と言っているか見てみましょう——「...愛は多くの罪を覆うからです。」

これは、私たちが他の人に惜しみなく愛を注ぐとき、しばしば他の人の罪や過ち、間違いが見過ごされることを意味します—それらは重要性の中で薄れていきます。

マタイ 18:21-22 – 「<sup>21</sup> そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯したばあい、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」<sup>22</sup> イエスは言われた。「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。」

箴言 10:12 – 「憎しみは争いをひき起こし、愛はすべてのそむきの罪をおおう。」もしあなたが罪を思い出して憎しみを抱き続けるなら、あなたは関係を損ない、自分自身も傷つけ続けることとなります。「愛はすべてのそむきの罪をおおう。」

これは、高校の時に生物の先生から聞いた話を思い出させます。彼はクリスチャンで、聖書の教えに関連した話をよく私たちにしてくれました。彼は、ある女性の話をしてくれま

した。その女性は夫から様々な形でひどく傷つけられていました。彼女は夫に何らかの形で復讐したいと考え、医者にご相談しました。彼女は夫をできるだけ打ちのめす方法で苦しめたいと思っていたので、医者は次の計画を提案しました。彼女は2週間の間、夫の好きな食べ物を作るなど、本当にたくさんの親切なことを夫に対して行うこと。そして2週間の終わりに、離婚するつもりだという知らせで夫を打ちのめすのです。その女性は医者に感謝し、その計画を実行に移しました。

数か月後、女性は医者を訪ね、医者はその計画がうまくいったかどうか尋ねました。すると、彼女はこう答えました。最初の計画の一部を実行に移し、夫にあらゆる親切なことをし始めたところ、夫も突然あらゆる親切なことを彼女に返すようになったのです。彼女は医者にこう言いました：「私たちは再び一緒に恋に落ちました！」結婚は救われ、二人は一緒に暮らし続けました。（この結果は、医者が行動計画を渡したときに意図していた結果だった可能性もあります。）

この話が示しているのは、誰かに惜しみなく愛を注ぐと、非常にしばしばその見返りとして肯定的な反応を得られ、その結果、過去の傷があっても互いに対する肯定的な行動によって関係が軌道に戻るということです。私はこれが、私たちが熱心に互いに愛することで、多くの罪が重要性を失って消えていくという原則のよい例だと思います。

今日のメッセージはこれで終わりです。今日の聖書の一節の主な教訓でまとめさせていただきます：

- キリストは私たちに模範を示しました。正しいことをしたことで批判を受け、私たちキリスト者もまた非信者からの批判に耐えるべきです。
- キリストは私たちの罪のために死ねました。だから罪に支配されてはならない — これが第1節が「罪から止まった」という意味です...私たちは罪に彩られた人生を生きることをやめました。
  - キリストの弟子たちはもはや罪のために生きるのではなく、これからは神の御心のために生きます。
  - 信じない人々は私たちの清らかな生活を批判しますが、最終的には皆神の裁きに直面することになります。
  - キリスト者はアダムの呪いによって苦しみ、肉体的に死ぬことはありますが、私たちは福音のメッセージを受け入れたので、永遠にイエスと共に生きるでしょう。
  - 効果的な祈りの目的のために、明晰で冷静でありなさい。
  - 「何よりもまず、互いに熱心な愛を保ちなさい。愛は多くの罪を覆います。」